慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	慶應義塾大学グローバルCOE3拠点シンポジウム : "Evolution of Human Brain"
Sub Title	
Author	渡辺, 茂(Watanabe, Shigeru)
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム人文科学分野論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2008
Jtitle	活動報告書 Vol.2, (2008.) ,p.47- 48
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	第2章 : シンポジウム等の活動報告
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002002-20090300-0047

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

9 慶應義塾大学グローバルCOE3拠点シンポジウム
"Evolution of Human Brain"

開催日　2008年11月28日
企画班　論理と感性の先端的教育研究拠点
共　催　幹細胞医学のための教育研究拠点（塾内医学研究科）、環境共生・安全システムデザインの先導拠点（塾内システムデザイン・マネジメント研究科）
企画者　渡辺茂、岡野栄之、前野隆司
講演者　Michel A.Hofman（Netherlands Institute for Neuroscience）、入来篤史（理化学研究所）、内田亮子（早稲田大学国際教養学術院）、北村和也、藤吉兼浩（塾内総合医科学研究センター）、前野隆司（塾内システムデザイン・マネジメント研究科）、渡辺茂、伊澤栄一（本拠点脳と進化班）

現在、慶應義塾大学にはいくつかのグローバルCOE拠点が発足しているが、共通の関心とテーマを持つ、「論理と感性の先端的教育研究拠点」（社会学研究科）、「幹細胞医学のための教育研究拠点」（医学研究科）、「環境共生・安全システムデザインの先導拠点」（システムデザイン・マネジメント研究科）が社会学研究科特別招聘教授として来日したMichel Hofman教授を囲んでのシンポジウムを11月28日に三田北館ホールで共催した。なお、このシンポジウムはすべて英語で運営された。

「論理と感性の先端的教育研究拠点」渡辺拠点リーダーによるOpening remarkの後、M.Hofman教授がHuman Brain Evolution: From Matter to Mindというタイトルで講演を行った。ヒトの脳進化の特徴を概説し、とくに大脳灰白質よりも白質部分の増大が著しいことを述べ、情報処理の観点からの進化の特徴を述べた。さらに脳進化を促した要因として環境要因、社会的要因を取り上げて人間の知性がどのように進化したかを説明した。さらにヒトの脳の量的進化は文化的進化のはるか以前に停滞しており、道具使用や文化と脳の関係についても洞察を述べた。

ついで、総合医科学研究センターから北村和也がTherapeutic Strategy for Spinal Cord Injury Using Hepatocyte Growth Factor; from Rodent to Primate.という講演を行った。これはhepatocyte growth factorを脊髄損傷部位にウイルスを使って導入し、損傷部位のファイバーや血管が部分的に修復され、行動評価スコアも上がったことを述べたもので、トランスレーショナル・サイエンスの成果である。また、同総合医科学研究センターの藤吉兼浩がAnalysis of the Spinal Cord Injury Using Diffusion MR Imaging～from DTT to Q-space Imaging～という講演を行い、マーモセットで、標準化した手続きで脊髄損傷を作り出し、最新の拡散テンソールを用いて損傷部位、治癒過程を生体で可視化するという話を美しい画像とともに説明し、次世代イメージングの展望を述べた。

昼食をはさんで午後からは早稲田大学国際教養学術院の内田教授がEvolution of the Brain and Human Way of Life というタイトルで講演し、生物人類学の立場からヒトの脳とヒトとしての行動の関係を論じた。ついで社会学研究科の伊澤特別研究准教授がHuman Brains and Avian Brainsとして、ヒトの脳進化とは異なる進化を遂げた鳥類の脳進化を概説し、特に鳥類の中で大型脳を持つカラスについて、グローバルCOEでの新しい成果を含めてその構造と機能を説明した。

最後は本拠点の国内連携拠点である理科学研究所脳科学総合研究センターの入来博士がNeurobiology of Primates' Intellectual Evolutionという講演を行った。この講演では理化学研究所でのサルの道具使用の豊富なデータを紹介し、効果器の延長としての道具のみならず、感覚器の延長としての道具使用を紹介し、道具使用と自己意識さらには言語の進化にいたる壮大な俯瞰を行った。

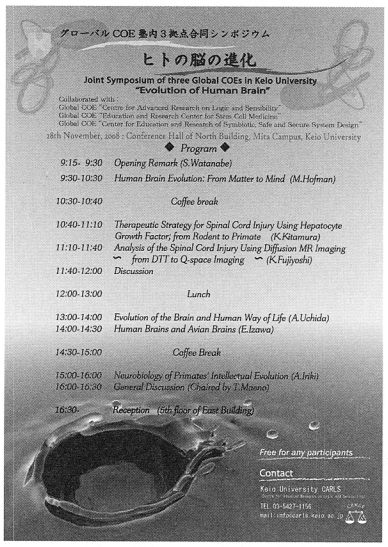
これらの講演の後、システムデザイン・マネジ

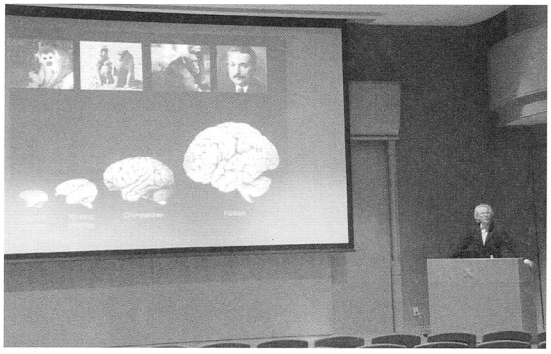
メント研究科の前野教授の司会で全体討論が行われた。前野教授は我が国におけるロボテクスの第一人者であるばかりでなく、意識についてもユニークな議論を展開していることでもよく知られており、この全体討議でも意識を中心とする議論が活発に行われた。

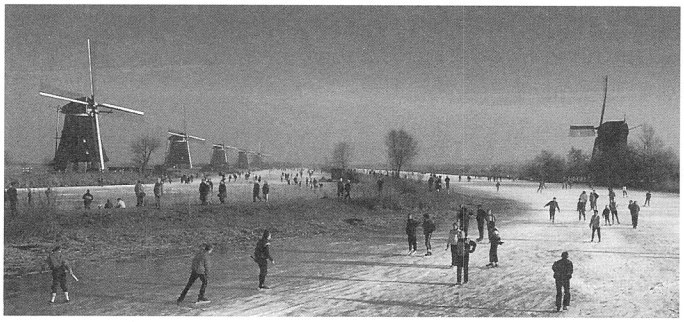
シンポジウム終了後、東館交流スペースで懇親会が行われ、オランダ出身であるHofman教授は壁に掛けられた咸臨丸の設計図にいち早く注目し、造船場所（Kinderdijk）がどこにあるかを説明し、また後日その場所の写真を送ってきてくれた。

今後とも、このような学内での研究科を超えた交流を深め、総合大学としての利点を生かした研究を展開していきたい。

（渡辺茂）







咸臨丸の造船場所であるオランダ キンデルダイクの風景